

会 議 録

1 会議名

第3回上越市青少年健全育成センター運営協議会

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 報告

- ① 令和5年度 事業・活動報告（公開）
- ② 令和5年度 街頭指導結果報告（公開）
- ③ 育成委員協議会委員アンケート調査のまとめ（公開）
- ④ 若者育成支援事業の進捗状況について（公開）
- ⑤ その他（公開）

(2) 協議

- ① 令和6年度 運営方針と事業計画（案）（公開）
- ② その他（公開）

(3) 情報交換（各機関・団体からの情報提供）（公開）

(4) その他（公開）

3 開催日時

令和6年2月15日（木）午後2時から3時まで

4 開催場所

上越市教育プラザ研修棟3階 大会議室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

なし

7 出席した者 氏名（敬称略）

- ・委員：梅澤健一、山岸賢一、阿部慎、井部佐恵子、市川直行、曾我茂樹、
北峰恵祐、竹内恵市、本間久美子、鈴木真理子、大堀みき、
吉岡智宣
- ・事務局：青少年健全育成センター池田所長、野池指導員、山崎指導員

8 発言の内容（要旨）

(1) 報告事項

① 令和5年度 事業・活動報告（公開）

資料①をもとに事務局が説明（資料①参照）

・質疑 なし

② 令和5年度 街頭指導結果報告（公開）

資料②をもとに事務局が説明（資料②参照）

・質疑 なし

③ 育成委員協議会委員アンケート調査のまとめ

資料③をもとに事務局が説明（資料③参照）

・質疑 なし

④ 若者育成支援事業の進捗状況について（公開）

資料④をもとに事務局が説明（資料④参照）

・質疑

吉岡委員：

14 ページの F i t の利用状況に関わる(2)「これまでの様子」で触れられている「外国につながる若者」の意味をもう少し具体的に説明してほしい。

事務局（野池指導員）：

公的には「外国籍」の子どものみを指すのではなく、外国で生まれ育って日本に来た子どもを含め、日本国外にルーツがある子どもを「外国につながる」と総称している。

事務局（山崎指導員）：

但し、F i t 利用者の中には、日本で生まれながら日本国籍や在留資格を得られない若者もいる。学校だけでなく、入国管理法上の対応や家族への支援も関わるので、多文化共生課など他の機関との連携も進めている。

⑤ その他（公開）

・青少年健全育成に関する意見

本間委員：

2月9日の新潟日報で、上越市内の高校生が、学校でも家庭でもなく、気楽に集う第3の居場所づくりに取り組もうとしているという記事があった。いわゆる不登校の居場所ではなく、交流を深めることが目的ではないかと推察しているが、行政によるものでなく、自身が進めようとするのが立派である。生徒会などで志をもった高校生がつながり、活動できるとよいと思う。

曾我委員：

その話に関連するが、当センターがFitを立ち上げようとした当時の所長が最初に構想したことは二つあった。一つは、現在のFitと同様に支援の必要な若者を対象とした居場所、もう一つは高校生や若者が街の中で集まることのできる居場所であった。現実の問題としては、スペースや対応する人員の関係で現在の形になったが、いろいろな若者が集まることのできる街中の第3の居場所は本当に必要なのだと思う。

(2) 協議事項

① 令和6年度 運営方針と事業計画（案）（公開）

資料⑤をもとに事務局が説明（資料⑤参照）

・質疑 なし

（拍手をもって承認）

② その他（公開）

・質疑 なし

(3) 情報交換（各機関・団体からの情報提供）（公開）

山岸委員：

不登校、いじめ、暴力行為などが年々増加傾向にある中、小中学校ではそれぞれ自校の課題に取り組んでいるが、その解決には小中連携や保護者、地域との連携・協力が今後も必要になると考えている。教育の現場で使われているタブレット端末の活用法については、小学校からしっかり指導する必要がある。また、高校とは健全育成に関わる諸会議で様々な情報を共有していきたい。

阿部委員：

毎月の街頭指導の結果については、当センターから情報提供いただいております。高等学校長協会でも共有している。当県における自転車乗車時のヘルメット着用率について、実際にどのように調査がされたのかは分からないが、公表された数値が低いことは残念であり、来年度の課題になると思っている。

高校では、SNSに関わるものが大半を占めるいじめや人間関係の問題があり、途中で転学していく生徒が多いのが現状である。しかし、高校生には生きる力はあると思っている。引きこもりの若者を救う上でFitの活動は大事であり、人間関係で問題を抱えている子に対しては、関係機関で連携して対応していく必要があると考えている。

井部委員：

地域の中には、いじめや学級崩壊のような状況が起こっている小学校があり、民生委員や地域の方に学校へ来てもらい、子どもの様子を見てほしいという要請をいただいたことがあった。そして、地域の大人が足を運んでいくうちに、落ち着いてきたという例があった。学校と地域が連携する必要性を感じた。

曾我委員：

今年度におけるFitの取組に関する報告によれば、高校生に当たる15歳から18歳の年齢層が増加しているとのことであったが、Fitを立ち上げた当時に最も中心になると考えていたのがこの年齢層であった。実際に運営していく中では、それより年長に当たる20歳代の若者の利用が中心になったが、若い年齢層の子どもがFitにつながるようになったことは、Fitの活動が軌道に乗ってきた表れであると考えている。中学校や高校との連携が重要になるのではないかと。

竹内委員：

私は旧上越市の子ども会事務局を含め、現在に至るまで長年子ども会の役員を務めており、地域の子どもたちと接する機会が多いが、現在市内においては全体的に子どもが減っていたり、組織離れの流れがあったりして、子ども会が成り立ちにくい状況が生じていると感じている。親御さんと協力して、地域の教育力を上げることや小さな子と大きな子がいっしょに遊べる体制づくりをすることが必要である。

鈴木委員：

今は私立高校や特別支援学校などの合格が決まった子どもが出てきている時期である。3月6日には公立高校一般選抜入試があり、「15の春」を迎えることになる。今年度もそうであったが、当初の目標よりも高い進路を選択して入学したものの、続かないという子どもたちが春の早い段階から多かつたのではないかと思う。Fitの活動状況の報告によれば、今年度は中学校時代に不登校であった利用者が多いということなので、小学校から中学校、中学校から高校への引き継ぎを十分に行いながら、必要な情報やこれまでの支援経過を確実に伝えていただき、切れ目のない支援と学校での見守りが行われるよう促していければと考えている。

教育センターでは、子ども相談電話、24時間の子どもホットラインを開設しており、令和5年4月から12月末までの期間で62件の相談を受けている。高校生本人や保護者からの相談も何件もあり、内容の中心は不登校や家族関係、日常の困りごとなどであった。本人に確認の上、場合によっては高校に伝えることもあるし、学校に相談するように話すこともある。教育センターへの電話が相談の入口になり、適切などころへつながるよう対応していきたい。

大堀委員：

教職を退き、地域の一員として子どもを見ると、以前とは見方は違ってくるし、本日の運営協議会で各方面の参加者の話を聞くと、子どもは多面的であるのだなあ実感する。学校の中にいるときは、学校の中の子ども中心になるが、そこに入れないう子どもに対しても手をかけていくことが必要であると思う。

北峰委員：

上越市の青少年健全育成会議は、中学校区ごとの組織である。安塚中学校、浦川原中学校、大島中学校が統合し、令和6年4月には東頸中学校になるため、現在の3地区の育成会議は1つになるが、各地区独自の活動はこれからも行っていくとのことである。現在、各地区の育成会議ではワークショップが盛んになっており、各中学校の生徒が地域を愛し、地域に元気を与えるために独自の活動を行っていることをお伝えしたい。

本間委員：

この冬は降雪が少ないので、青少年健全育成委員が街頭指導を行う上では

やり易いが、巡回場所でのたばこの吸い殻やゴミはむしろ多くなっている。
きれいな状態にしておく方が捨てにくくなるのではないかと考え、現在は
育成委員がゴミなど見つけたら拾うようにしている。

(4) その他（公開）

（意見なし）

9 問合せ先

上越市青少年健全育成センター TEL：025-544-4690

10 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。